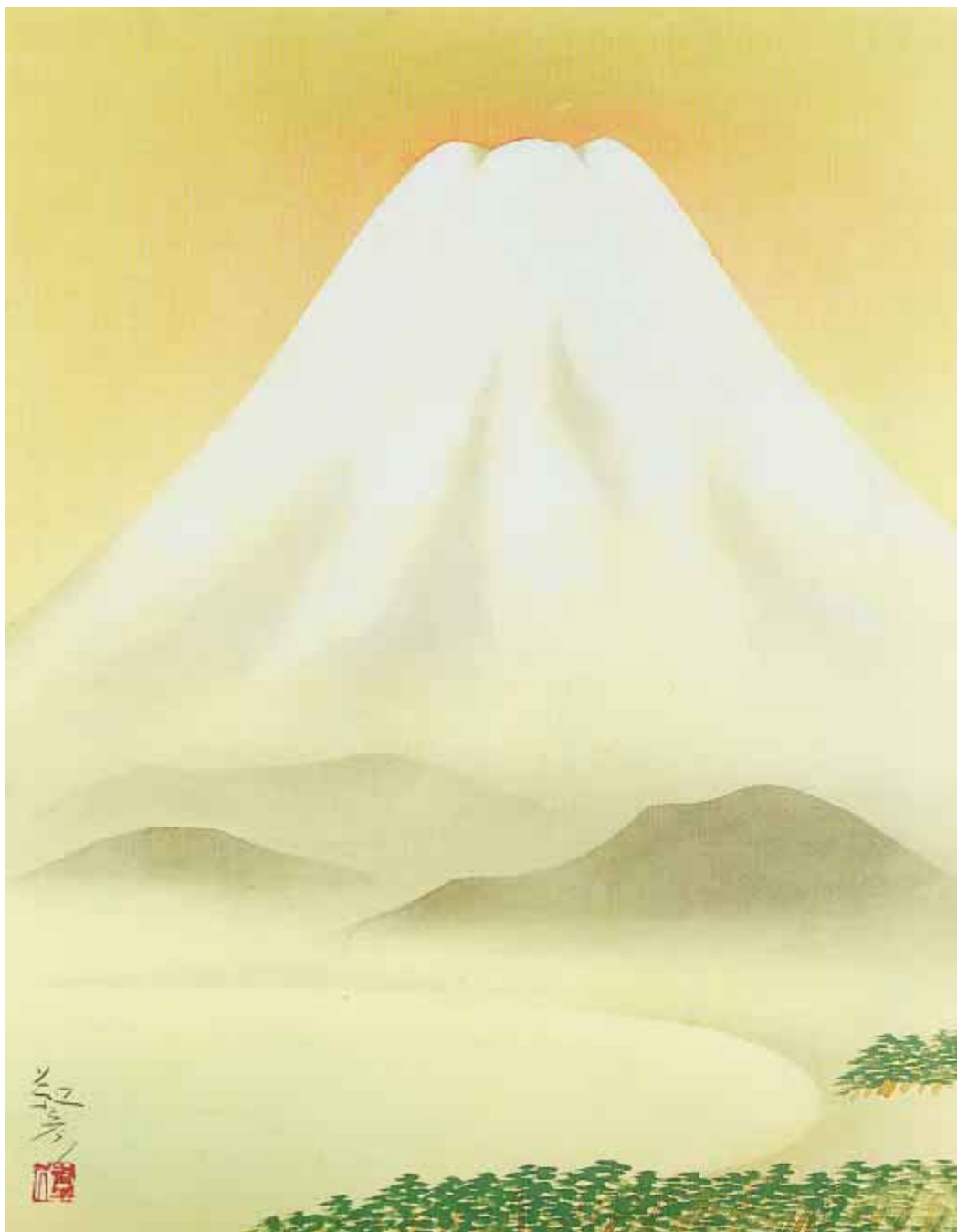


Stage Up

生涯学習情報誌
ステージ・アップ
2007年12月1日発行
隔月発行・通巻No.159
小誌はホームページからも見られます

もくじ

- 2 情報ポケット
- 3 施設めぐり
- 4 子ども特集
- 6 まち・ひと・多面体
- 7 シニアのパレット



安田鞞彦（やすだ ゆきひこ）画 黎明富士

誌上ギャラリー

川崎市市民ミュージアム所蔵。
戦前から、富士といえば横山大観が有名で、他の画家は作品として富士を展覧会に出品することは大観の手前、遠慮したという。
鞞彦が富士を描き出したのは戦後からで、戦争中、山中湖畔に疎開し、朝夕、富士の偉容に接したことがきっかけとなった。この作品は版画の原画にもなっているすぐれた出来映えで、黎明とは夜明けのことである。

発行・(財)川崎市生涯学習財団
〈ホームページ〉 <http://www.kpal.or.jp>

〒211-0064 川崎市中原区今井南町514-1
TEL 044 (733) 5560(代) / FAX 044 (739) 0085
ステージ・アップ TEL 044 (233) 6250 E-メール: stage-up@kpal.or.jp

当財団は市民の主体的な学びと活動を支援するため諸事業を推進しています。

情報ポケット

川崎学Ⅲの「美しい景観づくり」についての「事例発表」

10月4日、魅力ある川崎と発見「都市景観の日」として、第14回川崎・都市景観フォーラムが川崎市産業振興会館で行われました。主催は、川崎市と川崎都市景観協議会です。近田玲子さん（照明デザイナー）の基調講演に続き、かわさき市民アカデミーの受講生が「川崎学Ⅲ—美しい景観づくり」と題して事例発表を行いました。

美しい景観づくりとは、景観として負の部分を見直し、すなわち悪い景観、例えば電柱、電線、広告看板、バス停の椅子、まちの色、歩道橋などについて調査し、課題を解決する計画です。この二年間、川崎学Ⅲは、川崎の景観・風景の保全、創造について新しい制度や他都市の先駆事例を学びながら、実際に街を歩いて、市民の視点から川崎の景観・風景を考えました。そして景観資源集と景観づくりプランとを作成しました。

受講生3名で、1. 景観づくりの事例、2. 川崎の美しい風景の紹介、3. 景観づくりの要素について、道路と商店街とを例にして発表しました。

当日は、かわさき市民アカデミーや会社関係、市民の方々が100名近くも出席し盛況でした。かわさき市民アカデミーでは、学習成果の市民還元をめざしておりますので、これからも発表の機会があればと望んでおります。

川崎学Ⅲコーディネーター 土方 武



① 市役所前通りのイチョウの街路樹



② 美しい多摩川の風景



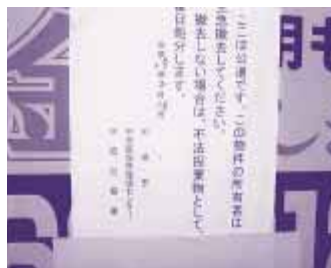
③ 川崎市内の住宅街



④ ③のそばにある稲城市の電柱電線がない街並み



⑤ 汚いベンチが並ぶバス停



⑥ 市民と行政と警察からの撤去のお願いが貼られる



⑦ ベンチが取り払われすっきり



⑧ 企業がスポンサーとなっている市役所前のバス停

予告!! シニアのシンポジウム開催予定 2008年2月2日(土) 14:00~16:00 川崎市生涯学習プラザ201

川崎市市民ミュージアム 師走必見!!

“つわもの” どもの光と影—稲毛三郎とその時代—展
12月9日(日)まで 9:30~17:00

観覧料：一般700円、高校・大学生・65歳以上500円
小・中学生以下無料 *セット料金あり

今まで資料の少なかった12世紀~14世紀の歴史資料を全国から集め、当時活躍した稲毛三郎重成とその時代にスポットを当てた展覧会。「後白河院庁下文」の平清盛の花押（当時のサイン）、2006年に収集された初公開の北条義時の下知状など貴重な資料を見ることが出来ます。

壮絶な場面を描いた絵巻や屏風、浮世絵からも当時の「つわもの」の様子を垣間見ることが出来ます。

みんなのデザイン—グッドデザインと私たちの生活—展
12月16日(日)まで 9:30~17:00

観覧料：一般700円、高校・大学生・65歳以上500円
小・中学生以下無料 *セット料金あり

1957年に設立されたグッドデザイン賞の50年を振り返り、選りすぐりの約100点を展示。58年に受賞した川崎で生まれた電気釜に始まり、今でもよく使われる醤油差し、ホチキス、重ねられる強化ガラス製のコップ。80年代の一世を風靡した持ち運びできる（今ではかなり大きく感じる）テーブルプレーヤー、インスタントカメラ、90年代のゲーム機、06年に川崎で生まれた足まくらなど、この50年間を「もののデザイン」を通してはっきりと知ることが出来ます。懐かしい気持ちとこんなに発展してきたのかという驚きでいっぱいになりました。

☆問い合わせ 市民ミュージアム ☎ 044-754-4500

【各館の事業のご案内】

○大山街道ふるさと館

今年度第1回の文化講演会が、ご自身の経験から目的地までの目安をわかりやすく工夫した、「未知の道シリーズ②『ホントに歩く大山街道』」を7月に出版した中平龍二郎氏を講師に招いて、11月10日に開催されました。

前半では、中平さんから社寺や道祖神・道標などの見所だけでなく、大山街道周辺の変化を明治・昭和・平成の地形図を使用しながら、実際に歩く時の参考になる話をしていただきました。

後半は郷土史や街道研究家の方々にも加わっていただき、『現在に生きる大山街道』をテーマに活発に意見交換がなされました。川崎市だけではなく、世田谷区や大和市などから矢倉沢往還・大山街道に興味や関心を持っている人も参加し、意義のある講演会になりました。



会場が一杯になった講演会

☆問い合わせ ☎ 044-813-4705

○子ども夢パーク

11月4日、「かわさき子どもの権利の日」事業として、昨年から取り組んでいる「こどもゆめ横丁」が行われました。子どもたちが自分の力で仲間を集め、店構えから商品、サービスまですべてが手づくりのお店を出しました。

夢パークに出現した『子どもの街なみ』は、アイデアいっぱいの店が立ち並び、呼び声も盛んに聞こえ、子どもたちは本物のお金での売り買いに緊張しながらも、「本気になれる遊び」を満喫したようです。



一日限定「こどもゆめ横丁」出現

11月18日には、恒例となった「KUJIROCK」が、手づくりの防音装置と照明でライブハウスに変身した学習交流スペースで実施されました。秋も深まった午後、出演者も観客もいい汗を流しました。

☆問い合わせ ☎ 044-811-2001

<http://home.hoo.itscom.net/yumepark/>

○宮前スポーツセンター「開館記念祭」平成20年2月16日(土)～17日(日)

◇2月16日

○イベント (9:30～11:30) ・和太鼓「響」 ・体操「Gymunity」 ・チアリーディング「VORTEX」
・E-JUNC DANCE 川崎おどり「EMIダンスチーム」

○利用団体による発表会 (12:00～16:30)

○無料開放・シェイプアップエアロ (17:00～18:45)

◆2月17日

○みやすポ「フットサル大会」(9:00～17:00)

○無料開放 ・リフレッシュ体操 (10:00～11:00) ・ピラティス (13:00～14:00) ・パワーヨガ (15:00～16:00)

☆問い合わせ ☎ 044-976-6350 <http://homepage2.nifty.com/miyamaesc/index.html>

○麻生スポーツセンター

◇バウンドテニス (初心者向け)

・1月10日～3月12日の木曜日 (全10回)
・時間 10:00～11:30 ・対象 15歳以上
・人数 40名 ・費用 5,000円

◇ストレッチ体操

・1月9日～3月12日の水曜日 (全10回)
・時間 14:00～15:30 ・対象 15歳以上
・人数 40名 ・費用 5,000円

◎申し込み とともに往復はがきに教室名・氏名・住所等を記入し、12月19日まで。

☆問い合わせ ☎ 044-951-1234

<http://homepage2.nifty.com/asasupo/>

○青少年の家

「こどもエコチャレンジクラブ」は、平成10年から開始され、仲間と体験を含めた学習を通して環境問題に対する認識を深めています。

今年度は、4・5月—会員募集、6月—牛乳パックで葉書作り・野外炊飯、7・8月—多摩川の環境調査・モツゴ放流、二酸化炭素の調査、9月—エコッキング・牛乳パックでグライダー作り、10月—東京電力見学と多彩な行事をしました。

今後は、3月に行われる『青少年の家フェスタ』での発表に向けて、環境ポスターや壁新聞の作成をする予定です。

☆問い合わせ ☎ 044-888-3588

特集 チャンスが



この特集で紹介できなかったミュージア川崎の「音楽工房」も含めて、川崎では子どもたちの学びの機会がたくさん用意されています。それらに共通しているのはいろいろな年齢の「子」が共に学んでいること。

小さな子は背伸びし、大きな子は身をかがめて一緒に考える。だから懸命に工夫し、いい汗が流れるのでしょう。スポーツの分野でも子どもたちがいろんな人といっしょに活動できる機会をつくるのが今後の課題なのかもしれません。

黙ってられない、放置自転車問題

考え、行動する川崎市子ども会議

環境問題を考えていた「川崎市子ども会議」の子どもたちが駅前の放置自転車問題に向かうのは自然な成り行きでした。きっかけはインターネットで見た国土交通省の統計。川崎市内の駅が3つも並んでいたのです。じっとしてられなくなって、津田山にある「夢パーク」の会議室で議論を重ねました。市役所にも取材し、撤去された自転車の行方も調べました。新品が安く買えることや保管場所が不便な所にあることにも気がつきました。結局、放置しないようにすることが一番とわかって、9月16日の溝口駅前の街頭活動になったのです。

「みんなに考えてもらうことが大事」「話しかけてきた



人気の夏休み創作教室

創作活動センターを舞台に

一方の壁に設けた小さな穴に凸レンズを仕込んだ真っ暗な部屋、しばらくして向かいの壁に白衣の女子学生の姿が映ると子どもたちから歓声があがりました。部屋をそのままカメラに見立てた実験に子どもたちは夢中。いつの間にかピンホールカメラ作りの虜になっていました。生田中学校特別創作活動センターで開かれた「夏休み創作教室」のひとつです。

他にも陶芸教室（①は3回、②は4回）や油絵、木工、

人に説明するだけではダメ。『あなたはどうか考えますか』と訊ねてみよう』という声が出ました。さすがは考え続けてきた子どもたち。大人の気がつかないことです。

子どもたち、ことに小学生が「私たちの未来が危ない」と書かれたチラシを差し出すとほとんどの人が受け取ってくれます。子どもたちにとって、環境問題はまさに「私たちの問題」なのだという気持ちが伝わるのでしょう。子どもたちが取り組む意義はここにあるのだということができそうです。

サポーターには目の不自由な田丸さんの姿もありました。「私がいることで子どもたちが幅広い人たちのことを視野にいれて考えるようになるかもしれない」と田丸さん。それが電車を乗り継いで遠くからやってきた田丸さんの願いです。

なお、12月16日13時から高津市民館で「暮らしよい川崎をめざして」をテーマに子ども集会が開かれます。

~~~~~  
染色（それぞれ全2回）があります。陶芸②では自分で考えたお面を陶器でつくります。焼く途中でまれに割れることがありますが、出来上がると子どもたちは大喜び。

鼻先でボールを回すアシカの曲芸のおもちゃ作りに取り組んだのは木工（全2回）。アシカの鼻先でボールが回るようにする仕掛けは与えられたものですが、仕組みを理解し、壊れたらいつでも自分で修理できるように工夫してあります。仕掛けと形は同じですが、彩色の仕方にそれぞれの子の特徴が滲みます。

油絵や染色を子どもたちが経験する機会はあまりなく、それだけに子どもたちは興味津々。作品の出来映えもなかなかのものです。この教室は毎年大人気で、定員の4～5倍の応募者があるほどです。コーディネーターの江良さんは希望に応じきれないことだけが悩みの種とか。



# いっぱい 川崎の子どもたち

## こんな夏休みがあってもいい

「キッズセミナー」で楽しく学ぶ

武蔵小杉にある生涯学習プラザで8月1日から7日まで開かれた「キッズセミナー」は大人気。小学校3年から6年生を対象に、遊んでいるうちに大事なことが学べるように工夫された国語、算数、社会、理科のほかに、図工、「楽しい音楽」や「おもしろ科学教室」「パソコン教室」で学びました。ここには通信簿もありません。そのせいもあって子どもたちはたっぷり学びに浸ることができたようです。

パソコン教室ではひとりに一台ずつパソコンが用意さ



## みんないい気持ち

創作クラブに集まる子どもたち

教室の初日「楽しいディナーメニューを作ろう」というテーマに「ん？料理教室か」と思ったのは早とちり。料理を布などで作り、それを盛る食器を焼き、テーブルやランチョンマットも作るのです。参加者は小学校1年生から6年生までの23人。教室は10月13日から2月23



れ、恵まれた環境でじっくり学ぶことができました。なかでも人気があったのは、おもしろ科学教室の「蒸気船づくり」。ああでもない、こうでもないと賑やかなこと。完成するとまた一騒ぎ。生涯学習プラザの駐車場でタイヤに浮かべて皆でわいわい。にぎやかに「蒸気船」を走らせていました。

日まで、毎回2時間、延べ10回にわたります。テーブルは木で作り、陶器も焼く。一年生にはなかなか難しそう。でも先生はそっと見守るだけです。コーディネーターの江良さんは「手助けは最小限にとどめている」といいます。

初日はメニューづくり。子どもたちはのびのびとメニューを描いています。絵の具を使うのは初めてという子もいます。なかには話しかけても返事が返ってこない子もいます。夢中になっているのでしょうか。子どもたちはここにくるといい気持ちになれるようです。ここでは、こうしなければならぬという束縛や子どもなりに経験している辛い思いから解放されるのかもしれませんが。

なかにはいろんなハンディを抱えた子もいるようですが、それが誰だか分かりません。それだけの子もいい絵を描いているのです。

楽しい時間は早く過ぎるもの。終了近くになって迎えに来たらしいお母さんの姿に気づいて絵を掲げて見せた子がいました。ドアの向こうで頷いたお母さんとその子が交わした笑顔が素敵でした。

## ご存知ですか「川崎市子どもの権利に関する条例」

「20世紀は子どもの世紀」と主張したのは、スウェーデンの思想家エレン・ケイです。しかし、彼女の願いも空しく20世紀は戦争の世紀でした。国際紛争が後を絶たず、いつも弱い立場の人びと、ことに子どもたちが大きな被害を受けました。第二次世界大戦後、国連でいち早く子どもの権利条約づくりを働きかけ続けたのはポーランド政府です。ナチスにより多くの子どもたちが犠牲になった経験があったからです。

条約は1989年9月国連総会で採択され、日本政府は1994年にこれを批准しました。批准したからといってすぐに子どもの権利が守られるとは限りません。むしろ大切なのは、子どもたちが生活する地域社会が変わることです。そのため

にはおとなの持つ古い子ども観を変える必要があります。

そこで、川崎市は日本で初めて総合的な子どもの権利条例を多くの市民、子どもたちの参加のもとに2000年12月に制定したのです。条例は、子どもが一人の人間として尊重され自分らしく生きていくことを支えるための、市と市民の約束です。子どもが安心して生活できて、困ったときは助けてもらえ、意見が尊重されることを目指しています。一度読んでみませんか。

<http://www.city.kawasaki.jp/25/25zinken/home/kodomo/jourei.htm>

## まち・ひと・多面体

### 「天国はここにある」

#### 涙と拍手につつまれたヤングミュージカル

小学校5年生から23歳までの若者たちによるヤングミュージカル「生きているから」が10月6、7日に上演されました。最終公演の日、溝口の「スクラム21」はほぼ満席。休憩を挟む二幕90分の公演はなかなか見応えがありました。それもそのはず。脚本、演出の千田恵子さんをはじめ演技、歌唱、ダンスまで全てプロが本格的に指導してきたのですから。

物語は級友の冬香を病気で失った中学3年生のクラスが舞



台。冬香のような病気を治せる医者になりたいと勉強に打ち込む瑞穂たちと、今しかできないことをすべきだと文化祭で発表するダンスに熱中する夏美たちの二つのグループが対立している。そこに天国を探して旅している幽霊の冬香と、戦争などで非業の死を遂げてさ迷う子どもたちの幽霊がからむ。

千田は子どもたちに、どんな時に幸せを感じるかレポートを求め、予想に反して足元をしっかりと見つめて生きている子どもたちに気づいたといいます。自分たちの気持ちを盛り込んだ台本は、演じる子どもたちにもしっくりきたようです。

稽古は厳しいものでした。中学三年生の男子の一人は「帰宅すると声が枯れていました」といいます。「声が小さい！本気で役を代えるよ！」という叱責。「対立した空気をつくれ！」といわれてその意味がわからずに戸惑っていたのは小学生。子ども相手でも遠慮はありません。それが子どもたちを背伸びさせるのです。目には見えない幽霊と子どもたちが交錯する場面で「私たちが気を遣わなくてはいけない」と呼びかけたのは中学生。幽霊が透明であるためには、すれ違う人間に幽霊を避けるような動きをさせてはいけないということです。

終演間近泣きながら演じている子がいました。これで終わってしまうと思うと涙が出て仕方がなかったといいます。それだけミュージカルに打ち込んでいたのです。参加した子どもたちにとって、まさに「天国はここにあった」のです。終了後涙を拭くことも忘れて抱き合っている出演者たち。こんな素敵なことはもっと多くの若者に経験してほしいものです。

### シニアの知恵が生きる「森」

#### 麻生多摩美森の会

「麻生多摩美森の会」が活動するのは、小田急線の読売ランド前駅から読売ランドに抜ける遊歩道の出口近くに広がる1.2ヘクタールほどの森。以前は笹に覆われた小学校予定地でした。今はそれを3つの部分に分け、鶯が営巣できるようにそととしてある一番下の部分では、現在3つがいほど営巣していて、取材中にも鳴き声が時々聞こえてきました。二番目の部分では里芋、薩摩芋、大麦を栽培しています。一番上の広場には、会で植えた栗の木の根元にイガが散らばり、自生の茶の木が白い花をつけています。

常時活動している会員は15～20人ぐらい。年配の方が多いようです。その中に生涯学習財団の市民アカデミーで学んだ人が数名いて、樹木の管理や森の手入れで活躍しています。

隣りには日本タンポポが自生する「ふれあいの森」があり、遊歩道を挟んで反対側の森では多摩区のグループ「こもれびの会」が里山を守る活動をしています。そこには時々南菅中学校区地域教育会議の子どもたちも加わっているようです。

大麦、里芋、薩摩芋は西生田小学校の観察教材にもなっています。「一緒に作業できればいいのですが、子どもの人数

が多いことや作物の成長の過程と学校のカリキュラムが合わなくて難しいのです」と会長の勝田さんは残念そうです。

訪問した日は11月の「収穫祭」の準備中。涼しくなったとはいえ、作業はけっこうきついもの。森をつくりながらいろんな人と交流できることが楽しいから打ち込めるのでしょう。メンバーの顔には力がみなぎっているように見えました。

ここに子どもたちが加われば活動がもっと充実していきそう。忙しい世の中、昼間の街に多いのは子どもとシニアです。両者が手をつないでいけば共に学びがもっと広がっていくのでしょうか、何かよい手だてはないのでしょうか。



## 読む科学講座Ⅲ

日本人なら誰でも知っている世界の偉人・アンリ・ファールブル。意外なことに、本国フランスではあまり知られていないのだそうです。そんなファールブルを愛してやまない奥本大三郎（おくもと・だいざぶろう）先生の「昆虫記」の世界。心ゆくまでお楽しみください。



### ファールブルに魅せられて

講師の奥本大三郎先生は、フランス文学の研究、教育に携わっている方です。広範囲な文筆活動で知られ、著書、翻訳書等多数あります。ジュニア版「ファールブル昆虫記」の翻訳者としても有名で、「完訳・ファールブル昆虫記」の翻訳をライフワークにしています。現在、埼玉大学教養学部教授、日本昆虫協会会長、日本アンリ・ファールブル会理事長などの要職にあります。

昆虫の標本（自分の物その他）や、ファールブル関係の資料がおよそ30トン。ついに「ファールブル昆虫館」を自宅に開設してしまったそうです。貴重な資料館が日本にあるのは、とても良いことです。趣味が本業と同じくらいに、高いレベルで維持されているのは、本当に素晴らしいと思います。

ファールブルは、55歳の時に広大な庭を持つセリニヤンの家に移住し、自らアルマス（荒地）と名づけた自宅兼研究所を、「好きなことを一生の仕事とする」場所に決めました。先生は昨年この家を訪問されたそうで、憧れの仕事を訪れた喜びがスライドの端々に窺えます。ファールブルが努力と探究心、そして熱意の人であったように、先生も同様な「虫屋さん」だと感じました。

天然記念物となったために、捕ることも触ることもできず、そのために貴重な品種が絶滅してしまうことがあるのだそうです。手を加えないことが、本当に自然保護なのでしょうか。「手を加えることで蘇る自然もある」という先生の言葉と実行力に感慨を覚えました。

私は、向ヶ丘遊園のバラ苑のボランティアに最初から参加しています。腰痛のため中々大変なのですが、今回の講座を受けて、小さな奉仕でも継続する必要があるのだと思いました。また、野に咲く花や植物に興味を持ちました。趣味や里山の散策の「旬の会」、「ばあそぶの会」は、自然と私との生涯の関りとして、今後も続けていきたいと思っています。

（かわさき市民アカデミー 福山辰夫）

# シニアのパート

## 川崎の歴史と文化の歩みを探る —Stage Up版 川崎七福神めぐり—

秋空の下、中原区にある七福神を訪ね、川崎の歴史と文化に触れました。川崎の街には、いろいろな発見があるものです。1度歩いてみませんか？



**布袋尊の大楽蜜寺**：三重の塔に迎えられ、本堂の布袋を見て七福神めぐりの地図を発見。布袋は、唯一実在の人物と言われています。お寺に来る方々が持ち寄ったというたくさんの布袋が見もの。お寺の布袋はどれか当ててみてください。（東横線元住吉駅下車徒歩13分）

**寿老神の無量寺**：お寺の正式名称は、瑠璃光山長寿院なので寿老神があります。境内には、弘法大師の立像が六地藏とともに立っており、紅白の萩が本堂の前に美しく咲いていました。寿老神は、鹿を伴い手に持つ軸物には、人の寿命の長短が記されているそうです。（南武線平間駅下車徒歩10分）



**恵比寿の大楽院**：牡丹で有名な奈良県の長谷寺の直轄。本堂脇のクスの巨木の隣に恵比寿堂があります。2体の木彫りの恵比寿は、小さいのですがとてもいい顔をしています。「釣りして網せず」、狩衣に烏帽子をかぶり、釣竿を持つ姿は、『暴利をむさぼらない』を示すとのこと。（東横線新丸子駅下車徒歩5分）

**大黒天の西明寺**：武蔵野国と相模国を結ぶ中原街道沿いの小杉御殿町にある徳川家ゆかりの寺。この大黒天は傳「木喰」作の一木彫り。微笑を浮かべた温和な感じで鎌倉時代のものであろう。西明寺は江戸名所図会にも載っており他にも塩で磨く塩地藏など境内の散策で面白いものがある見つけられます。（東横線武蔵小杉駅下車徒歩15分）



**毘沙門天の東樹院**：1458年平氏の流れである豪族、石井源左衛門がある時、毘沙門の杜のあるのを見、ここを霊地と定めお堂を再建し、一族の墳地としたのが始まりとのこと。きれいに彩色された毘沙門天は、外からの妨げを払いのける威光を表すそうです。（南武線武蔵小杉駅バス杉40市民ミュージアム経由中原駅行、蔵前下車1分）

**弁財天の宝蔵寺**：紅一点の弁財天の像は、水を湛えた小さな池と橋がある弁天堂の中にありました。水が人間の汚れを取り除き大地をうるおし、美しく豊かな国土を生み出す女性を表すことから、水に縁のあるところに置かれていました。琵琶を抱いた横すわりの像で落ち着いた顔立ちが特徴的でした。（南武線武蔵新城駅下車徒歩8分、大谷戸小学校左隣）



**福祿寿の安養寺**：昭和41年に再建された本堂の中には、短身で長頭、美しいひげを蓄え、杖を持ち鶴を伴う福祿寿があります。福は至宝、祿は地位、寿は長命を表すそうです。素敵な天井画もひととき異彩を放っていました。（南武線武蔵新城駅北口下車徒歩3分）

問い合わせ 川崎七福神事務局 ☎044-711-0729

（初詣：1/1～1/7 9:00～4:30）

## 「川崎市生涯学習プラザ」施設利用についてのご案内

川崎市および川崎市生涯学習財団では、市施設の有効活用を図る一環として、川崎市生涯学習プラザの一部会議室・和室の用途変更計画を進めています。  
その概要をお知らせいたします。

### 『施設利用説明会』について

- 1 日時 平成19年12月 3日(月)  
11:30~12:30
- 2 会場 川崎市生涯学習プラザ  
201会議室

### 『用途変更後の施設利用(案)』について

- 談話室(1階)  
生涯学習プラザ児童室に改修し、平成20年10月以降、保育室として利用できる予定です。
- 202・203会議室、204和室(2階)  
川崎市の行政機関施設(川崎市職員研修所が移転してくる予定です。)に、用途変更しますので、平成20年8月以降、利用できなくなる予定です。
- ※1 平成20年8月1日~9月30日の2ヶ月間は、改修工事のため全施設が利用できなくなる予定です。
- ※2 上記期間中も、利用申込受付は通常通り行います。
- ※3 上記期間中も、財団の業務は通常通り行います。



# 働く。学ぶ。



放送大学の履修制度「放送大学エキスパート」で社会人としての実践力を高めませんか。

#### 【エキスパートの一例】

#### ● 実践経営学プラン

企業やNPOなどの組織で、活躍しようとする人のマネジメント力を培います。

#### ● 心理学基礎プラン

心理学を包括的に理解するため、入門・初級から、さらにより高いレベルを目指します。

#### ● 福祉コーディネータプラン

福祉NPOや地域で活躍する人に求められる福祉や保険の知識、活動知見を高めます。

#### ● 芸術系博物館プラン

美術館・演劇博物館などの活動を通じて、芸術文化の普及に貢献する人を育てます。

その他にも社会生活企画プラン、次世代育成支援プラン、異文化コミュニケーションプラン等、全22のプランがあります。  
詳しくはホームページをご覧ください。

学ぶ理由は十人十色  
～ 放送大学、ご存知ですか ～

#### 平成20年4月入学生募集!

#### 募集期間

平成19年12月15日(土)

平成20年 2月29日(金)

- ・学びたい科目だけ選べる
- ・1科目から選べる
- ・全国のキャンパスで学べる
- ・入学資格は学ぶ意欲
- ・自宅でマイペースで学べる
- ・科目群履修認証制度(放送大学エキスパート)もスタート

電話、FAX、ホームページで募集要項(無料)をご請求ください。

インターネット出願も出来ます。  
フリーダイヤル: 0120-864-600  
FAX: 043-297-2781



**放送大学**

携帯サイトもご利用ください。

放送大学  **www.u-air.ac.jp**

検索エンジン(yahoo! JAPAN・Google 等)で、「放送大学」とご入力の上、ご覧ください。

放送大学本部 ☎043-276-5111(代表) ☎0120-864-600

東京世田谷学習センター (世田谷区下馬4-1-1)

☎ **03-5486-7701**

神奈川学習センター (横浜市南区大岡2-31-1)

☎ **045-710-1910**